

〔巻頭言〕

## CSF 対策 新たな段階へ

全農家畜衛生研究所クリニックセンター 大 角 貴 幸

2018年9月に国内では26年振りにCSF（豚コレラ）が岐阜県で確認され、発生が継続しています。昨年夏までは岐阜県を中心とした隣接県での発生でしたが、昨年9月埼玉県で発生が報告され、複数の広域的な地域での発生の様相となりました。2019年12月末時点で51事例、約15万頭の豚が殺処分されています。

また、イノシシでのCSF検出も継続しています。2018年9月の岐阜県内での初検出から、2020年1月4日時点では12県のべ1,680頭と検出が拡大しています。

養豚場でのCSF発生拡大には野生イノシシの関与が指摘され、当該地域では養豚場での対策、野生イノシシ対策両面で行われています。

養豚場での対策として国は、飼養衛生管理基準の遵守徹底、防護柵設置への助成に加え、2019年9月に12県に対して養豚場でのCSFワクチンの予防的ワクチン接種の実施を決定しました。さらに12月には8都府県での予防的ワクチン接種実施を決定しました。この結果、本州の中間地域の20都府県（京都から栃木まで）がワクチン接種地域となることとなります。

野生イノシシ対策としては従来からの捕獲の強化に加え、2019年春より経口ワクチンの散布が開始されました。当初は岐阜、愛知県での実施と

なっていますが、他県でのCSF検出拡大を受け、発生地域を囲むように東西でワクチンベルトを設定し散布を実施しています。現在では17県で約20万個のワクチンを散布しています。

このように、CSF対策は農場での衛生管理強化だけでは収まらず、ワクチン等の資材も活用しての対策が開始され新たな段階へ入りました。

今後、ワクチン接種がどの段階で終了するかはまだ見通せませんが、ここで忘れてはいけないのはCSF対策はワクチンを使用して終わりではないということです。

農場に病気（病原体）を入れない衛生管理体制を維持していることが大前提であることには変わりはありません。

SPF農場の皆様方には農場への病原体侵入防止（野生動物侵入防止、農場関係者以外の方の入退場ルール、資材搬入・導入時の消毒方法等）に関しての再点検をお願いします。

残念ながら、この原稿作成時に沖縄県でCSF発生が報告されました。沖縄県での状況を踏まえれば、日本国内どこでCSFが発生してもおかしくない状況です。我々養豚に携わる者として、これまで以上に全国の養豚場における衛生対策の強化に取り組む時期にきているのではないのでしょうか。